

第5期横浜市子ども・子育て会議 第7回保育・教育部会 公開議事会議録		
日 時	令和3年11月29日(木) 19時00分～20時00分	
開催場所	市役所18階 なみき18・19会議室	
出席者	石井部会長、山瀬副部会長、中丸委員、大澤委員、尾木委員、荻込委員、天明委員、森委員、大庭委員、新堀委員	
欠席者		
開催形態	公開	
議 題	<p>1 議事<公開案件></p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>(1) 横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「確保方策」の中間見直しについて</p>	
議 事	<p>石井部会長</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p> <p>大庭委員</p>	<p>まず、議事(1) 横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「確保方策」の中間見直しについて事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>議事(1) 横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育に関する「確保方策」の中間見直しについて説明。</p> <p>それでは、ただいまの事務局の説明について質問、意見がございましたらお願いいたします。</p> <p>私の手元の資料だと、まず、定員割れですが、11月1日の状況を調べてきました。これは18区合計で2,871人の定員割れが保育所ではあります。あと、港北区ですが、港北区でも430人の定員割れが起きております。1歳児はどうかというと、港北区は30人、定員割れ。2歳児が26人で、18区の中でも港北区は待機児童が多いと言われながらも定員割れは多い。あと、やはり3、4、5歳の定員割れはどの区も非常に多くて、合計で3歳が688人、4歳が841人、5歳が983人、2歳児の合計は213人、1歳児は117人、0歳が34人でございます。この辺は、もう一度情報をしっかりと確認しないとイケないと思いますが、これは区のホームページから取っていますので、間違いはないと思います。決して定員が埋まってきている状況ではありません。4月から現在まで。ここは一応確認をさせていただきたい。</p> <p>あと、もう1つは、今日、人口推計について説明いただけるものだと思っていたが、この表の作り方、ここをもう一度丁寧に御説明していただかないと、まだ委員の皆さんは、なぜ令和2年の0歳(25,745人)と令和3年の0歳(24,615人)の、その合計は50,360人になるが、令和4年には1・2歳の人数が2,574人も多い53,034人になっているのかという疑問は解けていないと思う。要は、その合計で推計を出しているのではなくて、人口の減少率というものを基に出しているので、</p>

	事務局	<p>決してここは合計にはならないということで、この前、私は説明を受けているので、できたらその部分を他の委員にも説明していただいたほうが良いのではないかと考えています。</p> <p>将来人口推計ですが、政策局が出している将来人口推計の増減率を令和3年度の年齢区分ごとの児童数を基にして、それぞれ掛けて出しているものです。そのあたりで、今回、0歳が下がっていますので、より大きく差が出てしまうことになっています。</p> <p>港北区の定員割れの話と全体の定員割れのお話がありました。</p> <p>まず、数字として出させていただいたのが、認可保育所と、いわゆる認定こども園の部分で1人以上定員割れがあるところの数を足し合わせている。そういう意味では、大庭委員のお話のあった、小規模保育事業とかが抜けていたり、数え方のところで、1歳児の定員外は受けているけれども、総数では定員割れはしているみたいなどころの差が、大庭委員のお話にあった数字と、事務局でお示ししている数字の違いに表れていると考えております。</p> <p>港北区の定員割れについて、港北区の中でも、やはり同じ横浜市のように、エリアでニーズの差がすごく濃淡が出ているという地域があります。先ほどの事例としては港北区の日吉、綱島あたりはニーズが高いですが、港北区でも少し駅から遠いような地域とか、少し離れている地域は、人口が減っているわけではないが、保育ニーズが下がっているところがある。そのような地域では、定員割れ等が発生してきてしまうとと考えております。</p> <p>従って、地域によって偏りがあると私たちも考えており、その点に関しては既存の施設で受け入れいただいて、それでも受け入れ人数が足りない地域には施設を整備していく方針は変えずに、できるだけ既存施設のところの定員割れを出さないように整備を進めていきたいとは考えております。</p>
	石井部会長	大庭委員、いかがでしょう。
	大庭委員	この人口推計に関しましては、こども青少年局で作ったわけではないですね。
	事務局	はい。
	大庭委員	そうすると、人口推計が合っている、合っていないという話になると解決策がないと思う。ただ、このまま現実と違う数字になっていった場合、計画を作った側にも責任がある。
		従って、その責任をしっかりと明確にし、これから保育所を整備するのであれば整備していただきたいのと、来年、今よりも定員割れの状況が多くなったらどうするのか。また、保育士不足への対策をどうするのか。それらへの対応もなく、このような計画で進めていこうとし

	尾木委員	<p>ているのは、甘い推計ではないかと思う。</p> <p>それでも、こども青少年局で出した推計児童数ではないので、あえて今日また反対とは言いませんが、もしこの人口推計を基に保育園を整備し続けるのであれば、今年よりも多い定員割れや保育士不足への対策に関して、責任を持って対応していく覚悟があるのであれば反対はしません。</p> <p>それから、幼稚園の定員割れもひどい状態です。認定こども園へ移行する場合に、3、4、5歳は5人定員増にするという条件があるが、ある区では、この5人増やせという条件でトータル15人の定員が増えたことで、周辺の幼稚園は入所者が減った。そういった実際に起こっていることも見過ごさずに対処をしていただければ、今日は、反対はしません。</p> <p>ただ、そこだけは責任を明確にして、この人口推計を作った方は、取り下げるなら今しかない。これが合っているのであれば、もうそのまま突き進んでいいと思います。今、皆さんの決断は、私のほうからは何も言えませんけれども、そういったことを前提に保育所をこれからは整備していただきたいとは思っています。</p> <p>前回の会議で、定員割れの状況、4月と10月の比較を出していただきたいとお願いしたのですが、地域型保育の定員割れの状況を知りたいと思っていました。</p> <p>保育所に空きがある間は、地域型保育は一般的に定員がいっぱいになりません。基本的に保護者は就学前の間中、ずっと通えるところに子どもを入れたいと思っているので、4月当初は定員割れがあつて、10月とか11月頃になって保育所の定員がいっぱいになると、地域型も一緒にいっぱいになってくるというのが、これまで毎年そうだった。</p> <p>最近は年度末まで定員割れがあるという状況も聞いていますので、それが横浜市でどういう状況なのかなということを知りたいと思っていました。</p> <p>先ほど港北区のお話の中でも、小規模等にもやっぱり定員割れがあるということでしたので、その辺が、特に小規模や家庭的保育では定員が少ないので、定員割れの影響というのはもっと大きいと思う。小さい事業なりに、定員で定めた人数分の運営費が確保できないという問題は、非常に大きいと思います。そのことを考慮していただきたいことがあります。新しい保育所ができる、近くに大きな保育所ができると、本当に子どもが入らなくなるという状況もあるのが現状だと思います。</p> <p>何年か前に国の子ども・子育て支援推進研究事業でも、どうしても最初の申込みが保育所に集中してしまうことに対して、いかに分散させ</p>
--	------	--

	石井部会長 事務局	<p>るかということを検討したが、保護者としては就学前にずっと通えるか、あるいは、3歳までの保育となったときに、移行先が本当に確保されるかどうかというところが一番心配なわけです。従って、連携先がしっかり確保されているというところ、この保育は3歳になるまでのところだけれども、その先に幼稚園もあるし、認定こども園もあるし、もちろん保育所もあるということを、強くアピールすることが必要だと私は考えていました。</p> <p>この会議の開始前に横浜市のホームページを見ていたら、卒園後の進級先として、それぞれの小規模保育等の地域型保育の2歳児が進級できる先として、施設名や受け入れできる人数が明確に示されているものを見て、驚きました。このようなものを見たのは、他の自治体と比べても初めてです。こういうデータがあると、保護者も安心して、低年齢のときは小規模の保育を利用して、その先に必ず確保されていることが伝われば選択肢は変わってくると思います。多くの地域型保育を利用している方たちは、最初は不本意なところもあるわけです。保育所に入りたかったのにと。でも、実際に利用を始めたら、小規模できめ細やかに見てくれる保育には、すごく満足度も高いところがあると思います。従って、保護者の不安を払拭するためにも、横浜市は、このようにちゃんと連携施設に進級する先が確保されているということを、これは10月に出されているということは、この時期にならないと、その人数に対応する確保先が決まらないのかもしれないが、前年度の実績でもいいので、2歳、3歳までの保育ですと終わりにするのではなく、その先に進級するところがちゃんと確保されているということを、きちんと説明していただくことが必要かなと思います。</p> <p>それと、もう1点。以前、運営者が変わるという事業者が何回かありましたが、常に定員割れしているような施設に対して、その施設が求めたときにいろいろ指導をするような形ではなくて、やはり市が介入して、恐らく地理的なことではなくて定員割れするというのは、やっぱり質の問題、そこを選びたくないような状況があるのかもしれないということも考えられ、その辺に対しても、もう少しいろいろ関与していくことが必要かなと思いました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今の尾木委員からの質問に関して、事務局、いかがでしょうか。</p> <p>まず、小規模保育の定員割れの人数は、把握はしていないのですが、10月、11月に、低年齢児は年度途中から入るという傾向があるので、それなりに入っているという認識ではあります。</p> <p>そういう中で、尾木委員のおっしゃるとおり、やはり認可保育所を皆さん選びたいというような傾向はあるのですが、小規模保育事業の</p>
--	--------------	--

	<p>石井部会長 事務局</p>	<p>良さ等を伝え、紹介をしています。</p> <p>連携先については、横浜市でも、100%連携の枠を確保させていた いているが、園によっては、なかなか使われていないところ、結構利 用され、連携枠で行かれているところの差がある。連携で使われてい る園を、訪問させていただきながら、どういうところが要因となっ ているのかを確認している。そういうところを少し横に展開していけ るばと思っており、検討とかヒアリングをしている状況です。</p> <p>尾木委員から質の問題が少し出たと思うのですが。</p> <p>質の問題ですが、確かに、施設の職員の方とか保護者の方からメー ルなどで、ちょっとこういう点が心配だけれどもという問合せが寄せ られれば、すぐに対応していますが、気配というか、まず全庁で察知 するという点では、施設から出される雇用状況表を基に、子どもの数 に対して先生の数に余裕があるか、ちゃんと足りているかというのは 毎月チェックしており、そこで、この施設は少し先生が足りなくなり そうではないかとなったら、区と連携して、施設に大丈夫ですかとい うようなことをやっています。</p> <p>ただ、尾木委員がおっしゃったように、定員割れに対して、この施 設は大丈夫かなと指導なり、状況を確認することは、そこまできめ細 かくできていないというのはあるかもしれません。突然、何か定員割 れが起こっているなどか、そういうことは確かに気配として察知する 1つのアラームになるかなと、尾木委員の御意見は大変参考になりま した。</p> <p>どのように察知して指導につなげるかというところは、少し課題は ありますが、1つの観点として承らせていただければと思います。</p>
	<p>石井部会長</p>	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>さっき、大庭委員のおっしゃったことに多分関連すると思うので、 各委員がどのように責任を取るのかというところで、方向性を確認し たいと思う。</p> <p>東京の葛飾区では大幅に0歳が見込み違いに今年なってしまい、結 果としてどう区が対処したかという、公立保育園の0歳児クラスの 年度途中の入所を完全に止めた。あとは、それを見込んで採用した園 については人件費の補償をした。来年、再来年の人数なんて、本当に 誰も細かくは予測できないのが実情で、コロナが第6波だの、第7波 だとかと来たときに分からない。逆に何か増え過ぎちゃってみたい こともあるかと思うが、それも分からない。今、明言できないかもし れないが、どの辺まで可能性としては考えられるのかと市が考えてい るのか、答えにくいかもしれませんが、教えていただけるとありが たいです。</p>

事務局	<p>今、こうできますというところは、正直なかなか言いにくいところですが、まず、受入枠の確保に関しては、既存施設を最大限に活用することを前提として、宅地開発とか、マンション開発とか、どうしても受入枠が不足するところは新規整備を行っていく必要があると考えております。</p> <p>その上で、横浜市として保育ニーズの見込みがあると想定したエリアで、新規整備をしたものの、施設運営者の責めによらずに、著しく利用児童数の少ない新設園が生じた場合は、園の状況も踏まえまして、市としても支援を検討する必要があると考えています。</p> <p>引き続き、定員の実態に合わせて、既存園としても御協力いただきながら、地域の情報を私どもも正確に把握しながら、できるだけ既存施設を最大限に活用しながら、今の保育ニーズに合った形の受け入れができるような取組をしていきたいと考えています。</p>
新堀委員	<p>大庭委員が、同じ表の中で、前年の0歳児、1歳児が、年齢がそのまま繰り上がったときに合計数が合わないということについて、そもそも参考になっているデータが幾つかあって、微調整もあるので、必ずしも表の中で数がプラスに、そのとおりにいかないという事情は、私としては理解したつもりです。</p> <p>3,000人のプラスというところについて、御懸念があることについても、確かにそうではあるけれども、微調整の中で、そこが数の見込みとしては、他の根拠を持ってくるというのがしづらい中では、何かによらざるを得ないというところで、その数字になったであろうと思っております。ただ、園が先生の確保や、定員割れなど、園が持続してけるかということ含めて、かなり責任を伴うものである中で、この中間見直しのときに、今、一生懸命真摯に取り組む必要があるということも、この場では共有できたと思っております。</p> <p>では、それを実際に確保するときにはどのようにしていくのかということですが、既存の活用というところが何度か、市の方針として出されました。それと、どうしても足りなそうなところに限定して新規整備すると伺いましたが、これは、今までこの部会で新しいところに何か募集をかけて、申込みがあると、それについて認定する、しないというのをやっていたわけなのですが、数を決めたら、それに100%に整備するということなのか、それとも、そこは柔軟に今後も考えていけるのか。既存活用と新規の園の募集であるとか、これからの数年間の中でどうしていくのかということについて、みんなにとっていい保育を整備していくという知見に立ったときに、市としてはどのような調整とかをしていくお考えなのかをお聞かせいただければと思います。</p>

	事務局	<p>まず、人口推計ですが、以前の当初の計画のままですと、やはり0歳児の数字が高い状態になるので、今回、数字を下げました。その結果、1・2歳と0歳で相当数が広がったというのがありますが、それは新堀委員おっしゃっていただいたように、推計の仕方が違うというところがありますので、ベストなやり方とはちょっと言えません。けれども、ベターなやり方でできたのかなと。それは、人口推計は5年に1回しか出さないということがあります。本当にしっかりやるのであれば、人口推計をやり直しという話になりますが、今回、中間の見直しということもあるので、正直、0歳という大きく乖離したところを手直ししました。</p> <p>あと、先ほどの大庭委員のおっしゃった責任みたいなのところもあるが、私ども、年間この1,290人という目標を掲げることになるわけですが、逆に目標を決めないと、整備量の指標が何もなくなってしまいうというものもあるため、人口推計に基づいた目標値を決める必然性があります。</p> <p>これまでは保育ニーズも伸びてきた中で、どんどん整備してきたというのが正直なところですが、今回、数字上は、保育ニーズはまだ伸びていますが、逆に、背後には就学前の人口減というものが大きく見えておりますので、私どもの立場としても正直厳しい時代に入ってくると思っております。</p> <p>そういった意味で、指標というか、目標値としては1,290人というものを掲げていますが、毎年毎年、予算組みはやっていますので、そういった中でも、今申し上げたニーズは上がっているけれども子どもが少なくなるという、難しいこともあるため、きちっと考え直すことはできます。しっかりとその場その場、例えば予算組みという中で考えることができると考えております。</p> <p>一方、適切に整備しない、もちろん定員割れ、造り過ぎという話もありますし、逆に今度、ニーズが発生したところに整備しないと、やはり待機児童あるいは保留児童が出ることになりますので、そういうことにも気をつけながら、しっかりやっていく必要があると考えています。</p>
	事務局	<p>部会で保育所等の新規整備を審議いただいておりますが、例えば、既存の園で1・2歳の定員を増やしていただくところを御協力いただいた場合は、個別に御相談に乗っており、その場合も改修費等のメニューもあります。これは少し前から続けている取組で、それでも、どうしても足りないものについて新規のエリアとして出ささせていただいて、整備をしていますので、既存の施設の御協力で1・2歳の枠も増やしていただいている。この部会では1件1件審議はいただいている</p>

	大庭委員	<p>いが、そういう取組も御協力いただきながらやっているところは御承知おきいただければと思います。</p> <p>方向性としては、今、皆さんがおっしゃった、説明していただいた方向で進んでいくと思っておりますし、別にそこで今、全部ひっくり返すようなことではない。</p> <p>ただ、責任と言っても、今、横浜市が何の責任を取れるのかは名言できるわけもないと思っております。ただ、一般的な感覚として、この間の鶴見のように開園しても誰も入らず、7月になっても入らない。ようやく一人二人の園児が入ってくるという園を認可していくのは、私はとても大きな責任を感じています。</p> <p>それから、0歳を削る、0歳を削るという話が先行していますが、移住される方、そして親御さんの立場から言ったら、0歳児はいつでも保育園が受け入れてくれる、そういうシステムを作ってこそ保育園は生きてくる。今ここで、7月、8月、10月から預けたい人が安心して、0歳児でも保育園に入れますよという考え方が必要だ。</p> <p>だから、0歳児はできたら、定員割れがあっても、そこに補助を出して行ってほしいと思います。</p> <p>そういうプランがあって人口増を見込む計画をすべきであって、何の考えもなく、計画だけが独り歩きしていくのはいかがなものか。</p> <p>なので、そろそろ0歳児をやめるという発想から、0歳児はいつでも入所できますよという保育所の在り方を検討していただきたい</p>
	事務局	<p>大庭委員のおっしゃるとおり、0歳児の保護者の方は、例えば育児休業制度のない自営業者の方とか、御家庭の事情で年度途中から入所する必要がある方、そういうことは重々承知しております。一方で、0歳児の「量の見込み」は6,200人で横ばいということで、今の待機児童、保留児童の状況を見てみると、待機児童、保留児童とも、やはり1歳児、2歳児が0歳児と比較して多い状況でございます。そういう意味では、0歳児として比較して圧倒的に受入枠が不足しているという状況も事実です。</p> <p>横浜市としても、保育を必要とされている方、これは0歳児に限らず、1・2歳児の方も含めて、全ての方が保育所等に入れることを目指す中で整備、受入枠の確保というところを進めております。0歳児に比べてニーズも高く、受入枠も不足している1歳児の新規受入枠を増やすことを、やはり課題として考えて取り組んでいるところがありますので、そういう意味では、恒常的に0歳児が定員割れをしている園を中心に、実態に合わせた定員の適正化を進めているというところも進めています。</p> <p>この取組によって、新規の保育所等の整備の抑制にも一定程度つな</p>

	<p>天明委員</p>	<p>がるという考えで進めているところは、御理解いただければと考えてございます。</p> <p>ミスマッチがいろいろ生じているという問題で、大庭委員がおっしゃる、0歳児を預かってもらえる、産むことに対する積極性みたいな考え方で、行政側がニーズの高い年齢層に充当していきますよというのは正しいと思うが、すごく人口が減っているという、産む側の気持ちとしては、ゼロ歳で預けられますよというメッセージが、いずれ1・2歳になったときに預けられるということと直結だと思う。</p> <p>別に、1・2歳になったら預けられますよ、育休があれば大丈夫ですよというのは、理屈としては分かるのですが、第1段階として、どんな状況になったとしても、子どもが生まれたら社会で育てるという仕組みを作っておりますよというメッセージがしっかりと届かないと、産むという体制にならないと思う。あと、偏在があるというのを正しく伝えるというのも、なかなかうまくいかないが、ちゃんとデータで見せていただいているように、どうしてもこの地域だけは偏りが出てしまう、頑張っているのが難しいですということを理解してもらような努力もしていく必要があると思う。</p> <p>生まれたら、預けて、育てて、働いてみたいなのが、横浜市内にできる場所はいっぱいあるのに、何かできないところばかりの数字が、待機児童の何人かというのだけがクローズアップされるというのが不健康だなという気がしていて、皆さんの努力がなかなか結ばれないというのが、聞いていて胸が痛いです。</p>
	<p>事務局</p>	<p>今回、令和3年度の人口が減って、少子化対策というものも市としてはしっかりやっていかなければ、と考えます。市民の皆様お一人お一人が、出産や子育てに対する希望が叶えられるというか、安心して赤ちゃんを産んでということができるよう、保育所だけでなく、出産や子育てへの不安がなくなるように総合的に進めていきたいと考えています。</p>
	<p>荻込委員</p>	<p>本日、この会議の前に園児特別委員会というのがあり、各18区の様子を伺ったばかりです。やはり園児減少がどこの区も影響していて、いいところで横ばい。悪いところでは推して知るべしというところ。</p> <p>幼稚園も保育園もそうですが、この現状をどう捉えていくのか。また、どちらにしても園児減少は、もう本当に止めることもできない。当然、横浜市も現状を回復することもできない中で、保育園にしても幼稚園にしても厳しいというのが現状と思っている。</p>
	<p>事務局</p>	<p>例えば、定員を認可のときに、200人の定員で設定した幼稚園も、子ども・子育て支援新制度に移行された幼稚園であれば、認可定員は200人だが、子どもが少なくなるとなれば、利用定員は100</p>

		<p>人に設定しようと御相談いただければと思う。定員が低くなると、子ども1人当たりの単価が増え、園に必要な先生を雇ったりするための給付額はある程度保障されると思う。横浜市も積極的に相談に乗っていくようにしたいなと思っている。</p> <p>利用定員と認可定員の間に差ができるということは、もしかすると園のキャパとして余裕ができるということなので、先生がもし足りなければ駄目だが、例えば先生も余裕があれば、地域の中の貴重な教育・保育資源ということで、それこそ幼稚園、保育所に入る前のお子さんが気軽に育児相談できたり、一時的に預かってもらいたいとか。そのような園児以外についても地域の中で活躍できる保育所、幼稚園になれないかという点について、市としても一緒に相談させていただきながら、どのような支援ができるか、そのような行政の補助なり助成が必要であるかという議論も必要になってくると思っている。</p> <p>国でも、人口減少社会になってきて、様々なことを考えているということで聞いていますので、横浜は人口減少というには、まだ少し早いかもかもしれませんが、国で検討されている情報もとりながら、皆さんと一緒に考えていければと思っている。</p> <p>他に御意見はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、委員の皆様にお伺いいたします。当部会の意見として、これは事務局の改善案のとおり認めることとしてよろしいでしょうか。</p> <p>そこに、条件はつけないのか。</p> <p>事務局にて必要な修正等をしていただきと言うほうが、ふさわしいですかね。</p> <p>来年、再来年と状況がより厳しくなったときにどうなるのか。このまま放置して終わりなのか。責任を取ると、今ここで明言できるわけもないが、それなりの対処を取っていただけるのか。保育士の確保も今よりも手厚くやっていただけるのかを条件としてつけていただきたいと思います。決議をするのであれば。</p> <p>このままでは先に進めないなので、もう1回事務局でお願いします。</p> <p>大庭委員のおっしゃる御心配の気持ちも、よく分かります。一方で、私どもも予算の関係があり、今何ができるとか、予算編成の中でこれができます、あれができますというところは、なかなか言えないのが正直なところ。適宜、認可の保育所等も含めた入所の状況等については、部会にも御説明させていただきながら進めさせていただきたいと考えています。</p> <p>前向きにやりますとかではなく、来年度、定員割れがひどくなったときに、現実を見て対処していただかないと現場が困ってしまう。</p>
	石井部会長	
	大庭委員	
	石井部会長	
	大庭委員	
	石井部会長 事務局	
	大庭委員	

	事務局	<p>従って、しっかりと対処しますという一言があれば、この決議に賛成というか、反対はしません。</p> <p>定員割れがあるという状況も、幼稚園を含めて確認させていただいたところでは、人口減があるということはある、直近ではコロナの状況もあって、なかなか来年の入所もどうなるか分からない点もあるが、この部会等に御報告させていただきながら、しっかりと確認をし、先に進むという形で、進めさせていただければと考えています。</p>
	石井部会長 大庭委員	<p>大庭委員、よろしいでしょうか。</p> <p>しっかりと議事録に今の事務局の発言が残っていることと思います。楽観的な予想をしながら、人口を増やしていきましようという話がしたいのですが、現場は本当に大変な状況なので、とにかくこうやって集まっていたいて、もしそういったことが起きたときには一緒に対策を考えていただければと思います。どうでしょうか。いかがでしょうか。</p>
	事務局	<p>改めて大庭委員からもお言葉をいただきましたので、確認しながら、しっかりとやっていくということで進めたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。</p>
	大庭委員 石井部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>大庭委員、いいですか。</p>
		<p>それでは、委員の皆様にお伺ひします。当部会の意見として、事務局の示したとおり、今さっきおっしゃったようなことを含んでいただいた上で、認めることとしてよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>